

学校だより 9月号

令和4年8月31日



横浜市立義務教育学校

緑園学園

RYOKUEN COMPULSORY EDUCATION SCHOOL

横浜市泉区緑園五丁目28番地 前期課程 ☎045(811)6710 後期課程 ☎045(811)6030

「身近に感じる自然環境の変化」

前期課程 副校長 丹野 一郎

39日間に及ぶ夏休みが終了し、学校に元気な子どもたちが戻ってきました。この長い休み中に、子どもたちそれぞれに多くの学びがあったことと思います。家のお手伝いをがんばった人、部活動に取り組んだ人、あるいは自分たちの郷土とは違った遠隔の地に行き、そこで多くの経験をしてきた人など、みんなそれぞれの宝物となるものがあったことでしょう。そういった普段の学校生活では学ぶことのできない経験を、ぜひこれからの生活の中に生かして行ってほしいと思います。

夏休み中、私は、以前から気になっていた本校の学区を流れるある川で「ガサガサ」を試してみました。

「ガサガサ」とは、水草や川岸に網を仕掛けて足で踏み鳴らしながら魚やエビなどを追い込んで取ることです。すると、10分も経たないうちに、水槽が魚やエビでいっぱいになりました。(川に遊びに行くときには、必ずおうちの人と一緒に、もしくは、伝えてから行きましょう。)

横浜市内の河川は年々水質がよくなり、確認される生き物の数が増加していると言われています。本校の学区も自然豊かで多くの生き物が生息しており、これから先も大切に守っていかねばなりません。



また一方で、今年の夏休みも、暑い日があったり突然の大雨があったりと異常気象を感じる日が多く続きました。近年よく耳にするようになった「線状降水帯」という自然現象の発生により、豪雨に見舞われる地域が全国的に見られました。私も、外を歩いていたとき、今まで晴れ間が見られていた空が突然暗くなり、遠くの方で「ゴロゴロ」と雷の音が聞こえたかと思うと、バケツをひっくり返したような雨が降り始めるといった場面に何度も遭遇しました。これら、近年の異常気象の増加は、地球規模の気候変動が大きく影響していると思われます。

このように、夏休み中、身近なところで自然環境の変化を感じるがありました。本校では、「ESD(持続可能な開発のための教育)」を推進しています。ESDとは、これらの現代社会の問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらす、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。子どもたちには、自然現象の変化などを自らの問題として主体的に捉え、これから先の世代にも恵み豊かな生活を確保できるよう、自分にできることから取り組んでほしいと思います。

夏休み明けも、持続可能な社会の創り手を育む教育へのご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。